

「グリーン・エコプロジェクト」の取り組み

東京都トラック協会

東京都トラック協会（東ト協、浅井隆会長）は2006年、「グリーン・エコプロジェクト」を立ち上げ、エコドライブ活動を継続している。改正省エネ法の施行に合わせて地球温暖化防止対策への対応を図ったもので、経営者・管理者・ドライバーの従業員一人一人の環境意識の向上を図ることから経営改善を目指している。

このプロジェクトには、独自の二酸化炭素（CO₂）など削減対策を盛り込んだ。ドライバーが自ら1枚の紙「走行管理表」に毎回の給油量と走行距離、そこから計算した燃費を手書きで記入していくことから始まる。

車両ごとに収集した燃費から

また、参加事業者のレベルに合わせ、経営者、管理者を対象としたレベルアップセミナーを開催。ドライバー教育用資料として、環境・安全関連資料などを提供するなど、ドライバー教育に役立つ環境づくりの支援も行う。ノウハウの提供だけでなく、

これらの活動の結果、16年間の平均で燃費向上率は17.7%、CO₂削減量は約26.5万ト。杉の木に

く、フローアアップや具体的なアドバイスを行うことで容易に活動を実践できるよう支援。CO₂排出量の削減や燃費向上に伴うコスト削減、事故防止などにつながっている。

換算すると約1893万本の植樹に相当する。交通事故低減率は約28.8%の削減効果となった。

継続的なエコドライブ活動



東京都が貨物運送事業者を評価する「貨物輸送評価制度」を制定する際には、制度設計に必要な貨物自動車の燃費データを提供。指標の基礎となるトラックの実走行燃費のベンチマークの制定につながり、世界初の制度構築に貢献した。

従業員一人ひとりの環境意識向上を図る

【選考委員コメント】
個々のドライバーによるエコドライブの実践の積み上げが大きな温室効果ガス排出削減につながる。ドライバーがエコドライブに容易に取り組める仕組みを構築し、多くの参加を促すにとどまらず、組織としての活動継続とレベルアップを図れるよう、フローアアップやモチベーション向上のための表彰制度など総合的に支援しており、削減効果を上げている。